

# 第3章

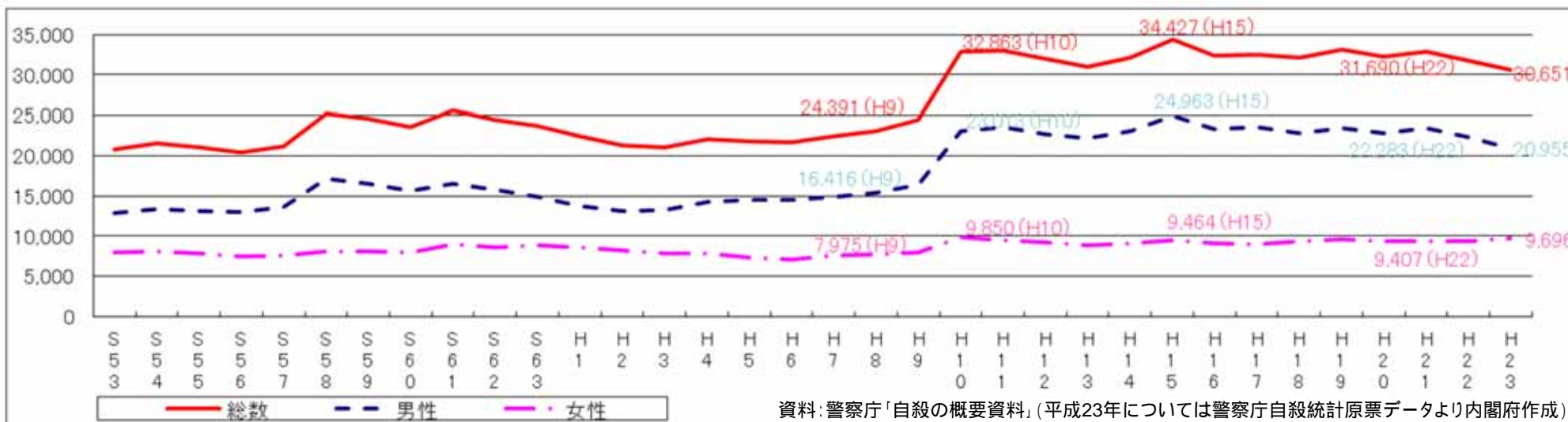
## 平成23年中における自殺の分析

## 自殺者数の年次推移

平成23年の自殺者数(30,651人)は、対前年比1,039人(約3.3%)減。

14年連続で3万人を超えたものの、3万1千人を下回るのは平成10年の急増以降初めて(14年ぶり)。

(単位:人)



## 月別自殺者数の推移

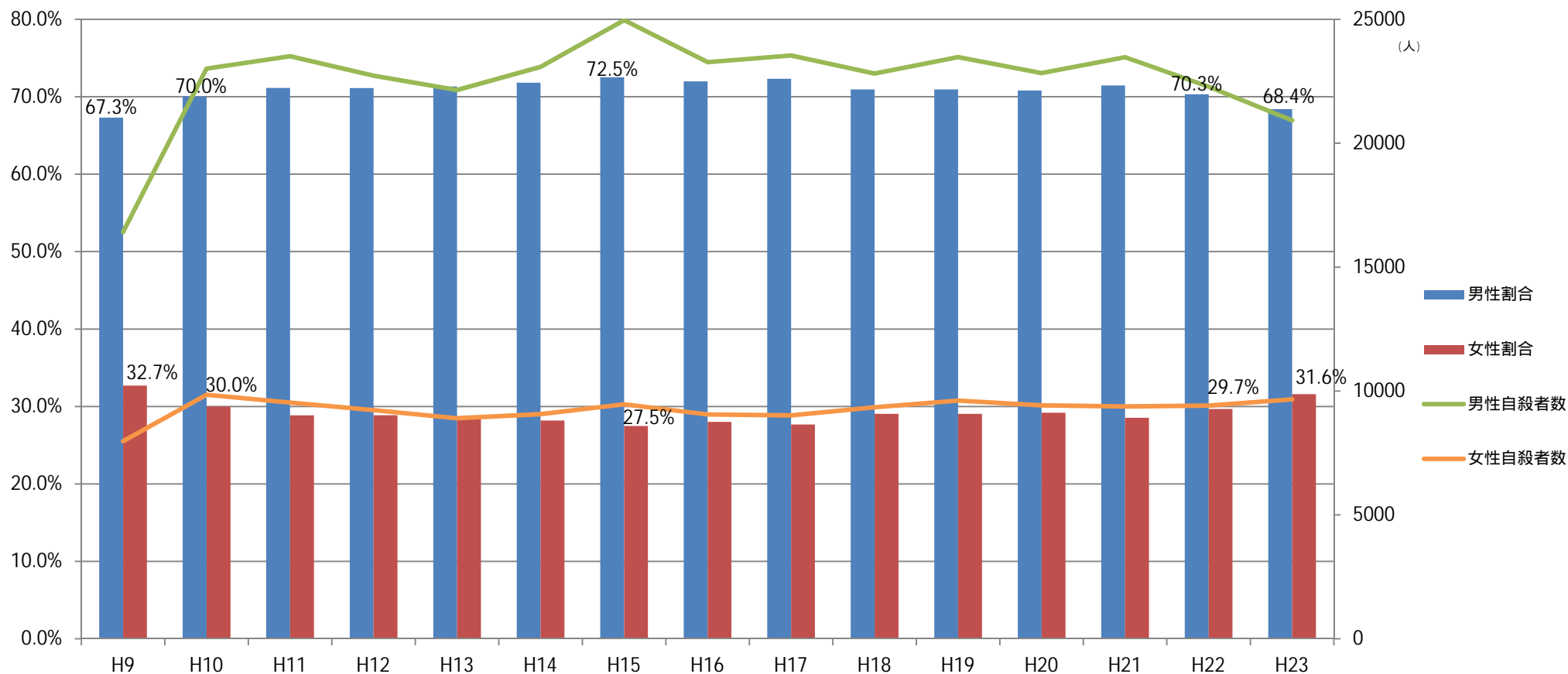
平成23年は、5月に対前年比593人(約21.3%)増と急増したが、4~6月と8月を除き、前年同月の自殺者数を下回った。(単位:人)



# 男女別自殺者数と構成割合の年次推移

平成23年の自殺者数の男女別構成比をみると、**男性が68.4%、女性が31.6%**となっている。

我が国における自殺者数の男女別構成比は、自殺者数が急増し3万人を超えた平成10年以降、男性が7割を超える状況が続いていたが、**14年ぶりに男性が7割を下回り、女性が3割を超える状況**となった。

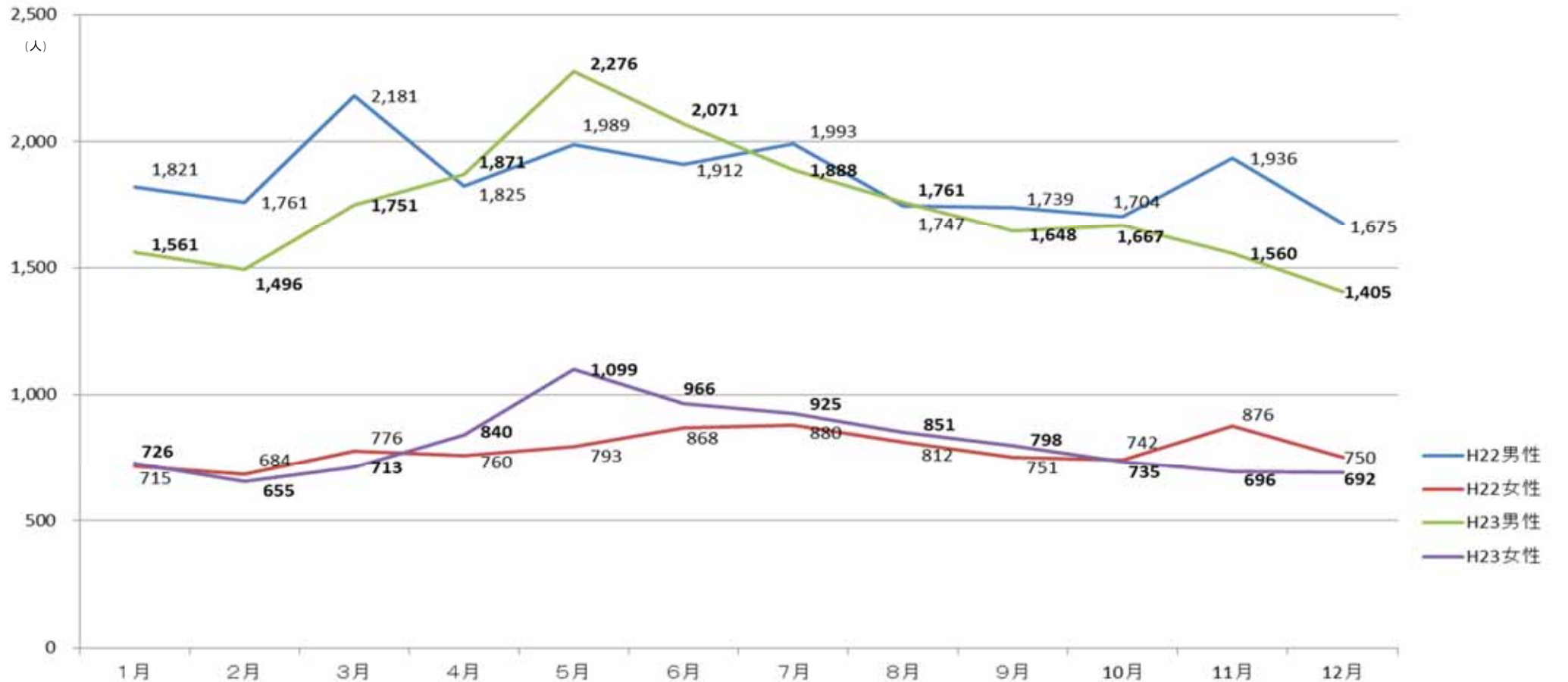


資料：警察庁「自殺の概要資料」（平成23年については警察庁自殺統計原票データより内閣府作成）

# 男女別自殺者数の月次推移

平成23年は、5月に男女とも自殺者数が急増したが、特に女性は平成20年に月別自殺者数の集計を開始して以降初めて1千人を上回った。

平成23年は、男性の自殺者数は4月～6月及び8月を除き前年を下回ったが、女性の自殺者数は1月、7月及び9月も前年を上回っており、春から秋にかけて前年よりも増加する傾向が続いた。

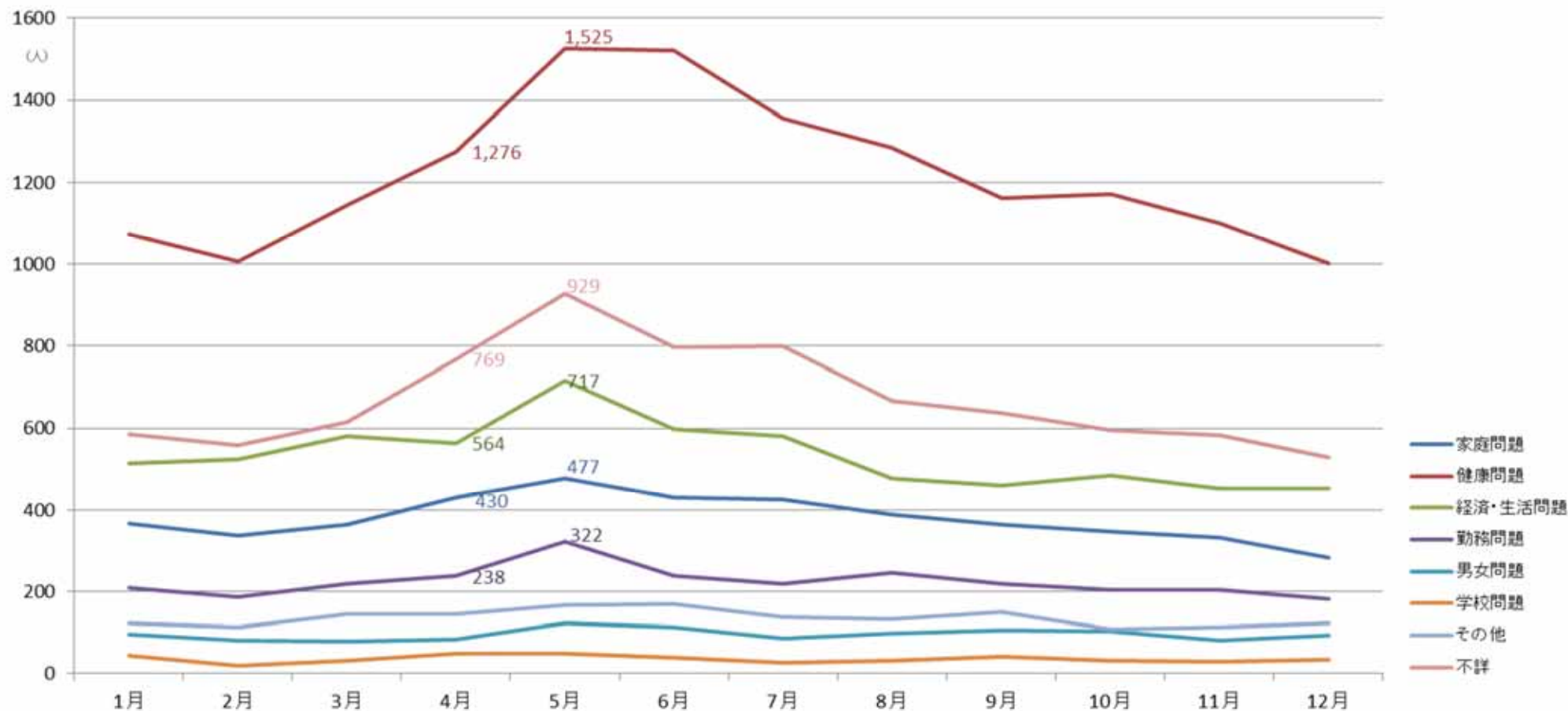


資料：警察庁「自殺の概要資料」(平成23年については警察庁自殺統計原票データより内閣府作成)

# 平成23年における自殺の原因・動機別自殺者数の月次推移

年間を通じて健康問題が最も多いが、中でも3月から5月にかけて増加している。

経済・生活問題が5月に急増している。



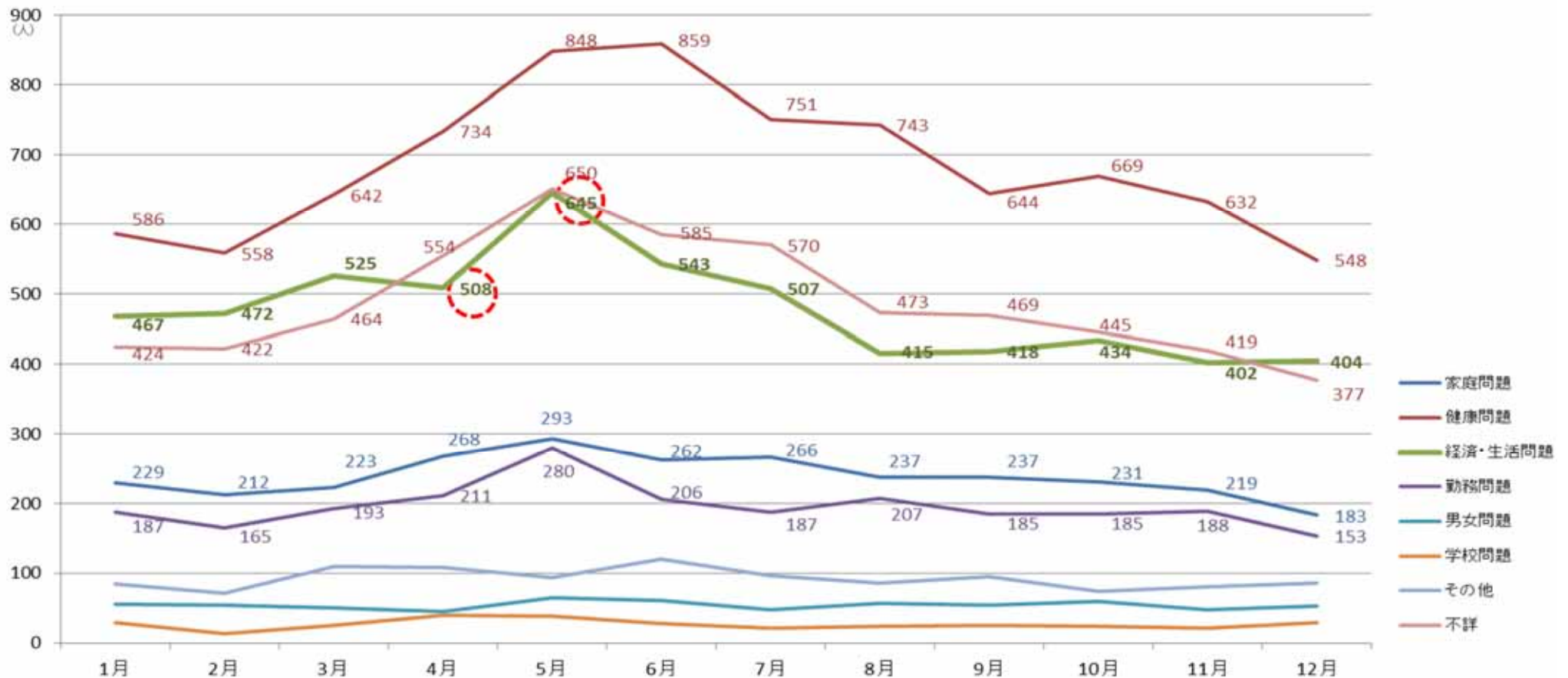
注) 遺書等の自殺を裏付ける資料により明らかにできる原因・動機を自殺者一人につき3つまで計上可能としたため、原因・動機特定者の原因・動機別の和と原因・動機特定者数とは一致しない。

資料: 警察庁自殺統計原票データより内閣府作成

# 平成23年における自殺の原因・動機別自殺者数の月次推移 (男性)

年間を通じて健康問題が最も多いが、中でも3月から6月にかけて増加している。

経済・生活問題、勤務問題が5月に大きく増加しており、特に経済・生活問題は急増(137人増)している。

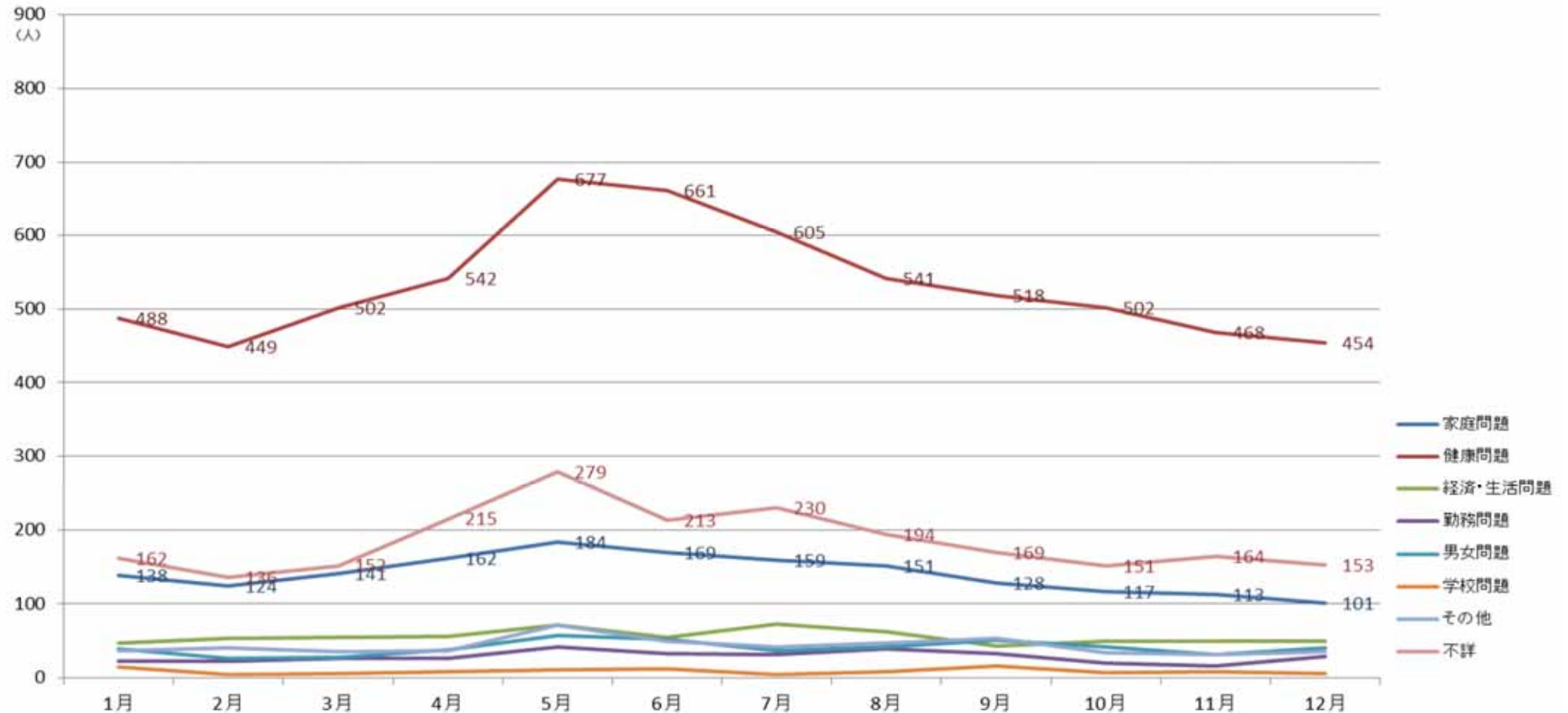


注) 遺書等の自殺を裏付ける資料により明らかにできる原因・動機を自殺者一人につき3つまで計上可能としたため、原因・動機特定者の原因・動機別の和と原因・動機特定者数とは一致しない。

資料: 警察庁自殺統計原票データより内閣府作成

# 平成23年における自殺の原因・動機別自殺者数の月次推移 (女性)

年間を通じて健康問題が最も多いが、特に5月は前月に比べて増加が顕著である(135人増)。

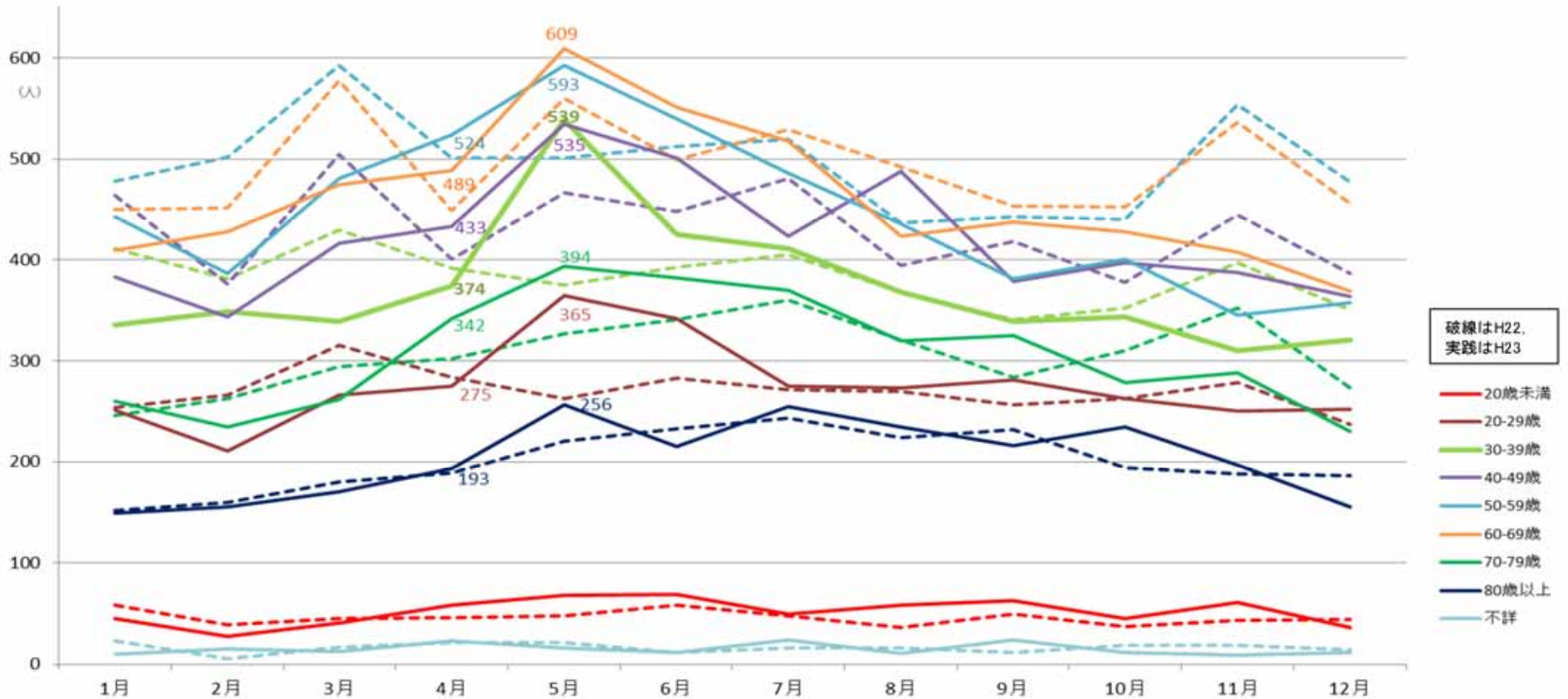


注) 遺書等の自殺を裏付ける資料により明らかにできる原因・動機を自殺者一人につき3つまで計上可能としたため、原因・動機特定者の原因・動機別の和と原因・動機特定者数とは一致しない。

資料: 警察庁自殺統計原票データより内閣府作成

# 年齢階級別自殺者数の月次推移

平成23年は、20歳未満と不詳以外の年代において5月がもっとも多くなっているが、中でも30歳代は前年に比べ164人増、前月と比べ165人増と5月に大幅に増加している。



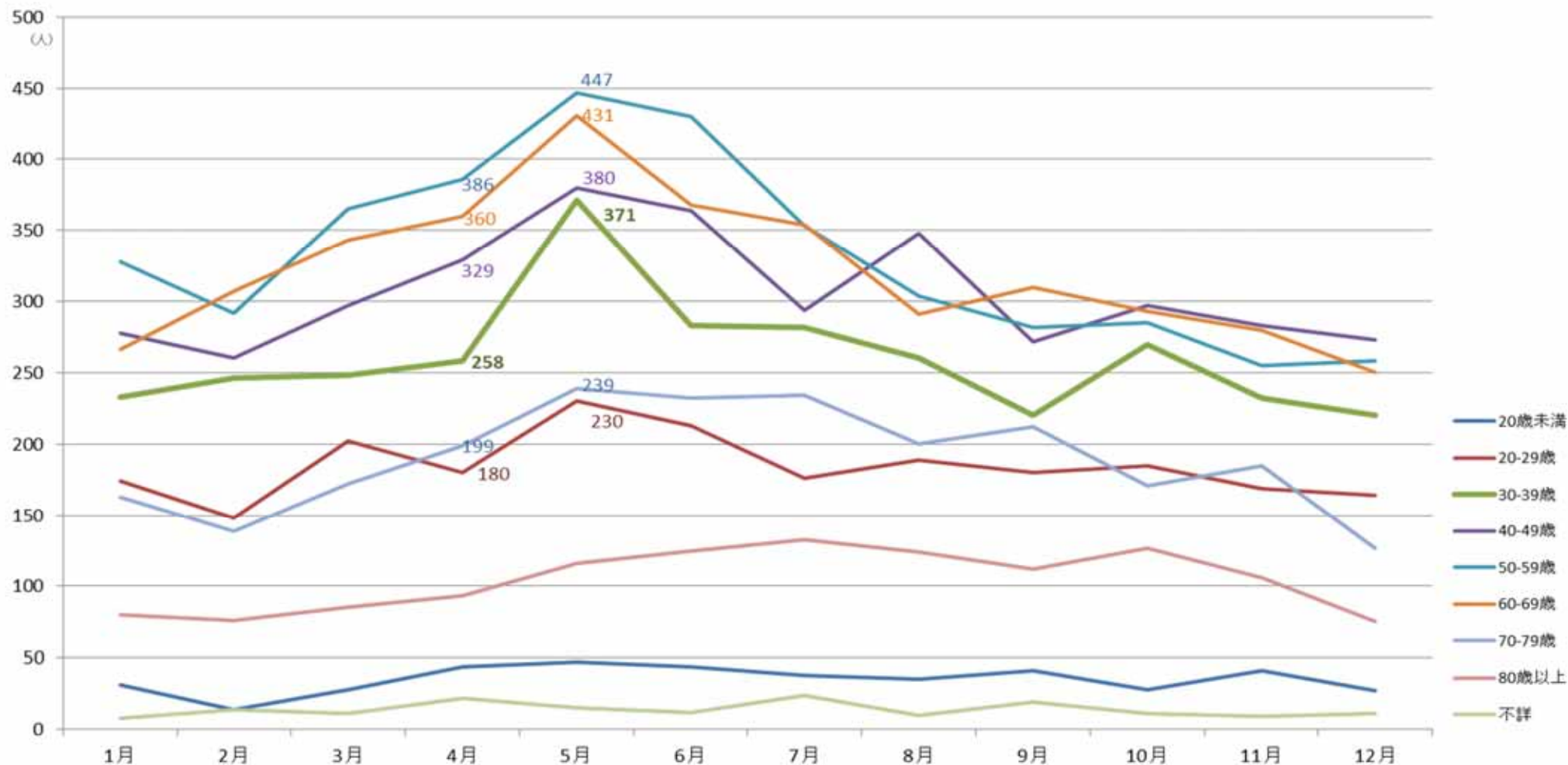
資料:警察庁「自殺の概要資料」(平成23年については警察庁自殺統計原票データより内閣府作成)



# 平成23年における年齢階級別自殺者数の月次推移 (男性)

80歳以上と不詳を除く全ての年代において5月が最も多くなっている。

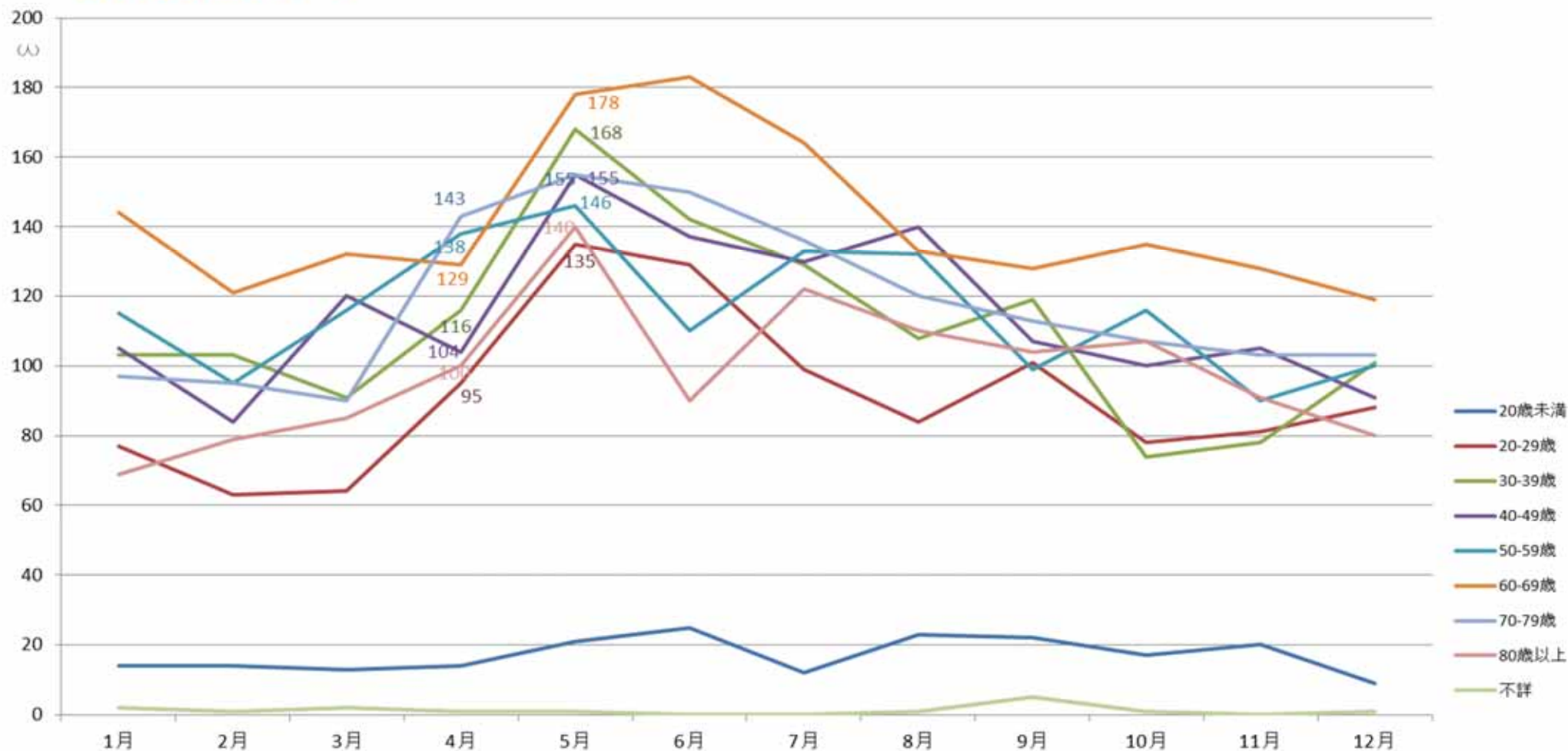
中でも30歳代は4月に比べ113人と100人以上の大幅な増加となっている。



資料: 警察庁自殺統計原票データより内閣府作成)

# 平成23年における年齢階級別自殺者数の月次推移 (女性)

多くの年代で4月・5月に増加しており、**5月の自殺者数は20歳未満と不詳を除く全ての年代において130人を上回っている。**



資料: 警察庁自殺統計原票データより内閣府作成